

～誰もが暮らしやすい地域を目指して～



特定非営利活動法人 どんぐりの会



外観(戸木)

企業概要

理事長
池田 美美氏



所在地 三重県津市戸木町7185-1
TEL:059-273-6966 FAX:059-273-6967

設立 2013年(平成25年)8月

従業員数 14人(2021年5月末現在)

事業内容 飛び出し注意喚起看板設置維持管理、広域対応型学童保育、就労継続支援B型、認可外保育

URL <https://npo-dongurinokai.org>

個性をのばし、協働し、社会をより発展させていく

同じ思いをする人を助けたい

特定非営利活動法人どんぐりの会は、「飛び出し注意喚起看板設置・維持管理事業」や「学童保育事業」、「就労継続支援B型事業所」の活動を通し、「誰もが安心して子育てができる教育格差のない社会」、「誰もが好きな仕事に就ける就労格差のない社会」を目指して活動するNPO法人である。

同法人は、2013年に池田美理事長が、自らがシングルマザーの立場で経験した「子育てと仕事の両立」の苦労を少しでも緩和することで多くの女性が働き続けられるようにサポートするため創設した。

池田理事長は出産・育児を機に仕事を辞め、専業主婦をしていた。その後、シングルマザーとなり、子育てをするために正社員として働くこと、かつて勤めていた老人介護の仕事に応募し面接を受けた。しかし、「夜勤、土日



外観(小野辺)

祝なども出勤するシフト勤務ができないと正社員では雇えない」と言われ、親にも頼れず夜間や土日祝に子どもの預け先がなかった池田理事長は断念。結果、子育てのためにやりたい仕事を諦め、正社員・昼間勤務という条件で探した事務職として働き始めた。

しかし、子どもが小学生に上がると今度は学童保育の現状に直面した。学童保育の多くは、預かり時間が16時や17時までと短く、さらに、その運営は学童を

利用する保護者からなる保護者会が行っており、学童支援員の求人や面接、給料計算等を保護者が行っていた。

池田理事長は、女性が子どもを預けて働くこと、働き続けることの難しさを改めて実感し、同じような想いをする人を減らそうと「保護者に負担をかける学童保育」の設立に向け動き始めた。

子どもたちを守る 飛び出し注意喚起看板

当時津市では二つの学区につき一つの学童にしか行政の補助金が出ない決まりがあったため、池田理事長は補助金を使わずに設立・運営を行う方法を模索し



飛び出し注意喚起看板

ていた。ある日、道でふとポロポロになった「飛び出し注意喚起看板」が目に入りある事業を思い付いた。飛び出し注意喚起看板は、設置道路の管理者である地方自治体に許可を得て設置するものである。しかし許可が必要と知らずに学校PTAが予算を使い設置し、維持管理されないまま壊れた看板が放置されるケースが多いという。そこに目をつけた池田理事長は、地元企業や商店が看板設置にかかる費用を負担する代わりに、看板下部に自社名を掲載し地域に対し社会貢献のPRができる仕組み、「飛び出し注意喚起看板設置維持管理事業」を立ち上げた。現在、協力企業数は100企業にのぼり、この収益と利用料金によって同法人の学童保育運営が行われている。

預かるだけでなく、 学びの場に

14年に設立した学区を問わない広域対応型学童保育「どんぐりの家」は、池田理事長の「同じように問題を抱える女性を何とかしなければ」との想いで小さな軒家から始まり、現在は専用施設2か所で運営している。どんぐりの家では、平日の放課後や土日祝、夜間、下校時間や夜間預かり時の送迎も行っている。また、手作りのおやつや休日には昼食を提供するなど、温かみのある学童保育を心がけている。そのような日々の中開催される、「お泊り会」や「出前授業」といったイベントは、子ども達の成長にとっても良い効果を与えている。「お泊り会」では、始めた当初、子ども達が布団を片づけずに朝ごはんを食べに来たため、



季節のイベント



水産漁業就労支援



トイレ掃除

「自分達が使った布団は自分で片付けないといけない」と教えたところ、次回のお泊り会では上級生から下級生へその教えが継承され、大人が言わなくても片付けができるようになったという。「出前授業」では、「飛び出し注意喚起看板設置維持管理事業」の協力企業から「世界のトイレ事情」という話を聞いたところ、子ども達が「日本のトイレはこんなに凄いんだから綺麗にしよう」と率先して学童内や公共のトイレ掃除を行うようになったという。

働く親の心強い味方

同法人では、病児や乳幼児保

育にも力を入れている。子どもが発熱した際のお迎えから病院受診、時預かりができる「病児サポート」ほか「か事業」を18年に開始。保育園や学校から連絡があつてもすぐに仕事を切り上げて迎えに行けない場合に利用できるサポートとなっている。

また、同年に保護者からの要望で通常保育だけでなく土日祝・夜間も預かる認可外保育「このみルーム」を開始。「このみルーム」は、常時預かりではなく「保育園に落ちた」「就活の面接のため」など二時的に預かりが必要な時に活用できるもので、子育てのために働かなければならないが、他に頼ることが難しい人の心強い味方となっている。

個々の特性に応じた 就労支援を

学童保育に併設する形で、20年に障がい者福祉として就労継続支援B型事業所Liberta(リベルタ)を開始。

池田理事長が障がい者福祉を始めたきっかけは、ある企業で事務職をしていた時にまで遡る。

当時、池田理事長は不慣れなパソコンを使う部署で働き、別部署では身体障がいがありつつもパソコンが得意な人がパソコンを一切使わない仕事をしていて、その時池田理事長は、「この人は、パソコンが得意なのにパソコンを使わない部署なのは、障がいがあるからという理由なのではないか」「個々の特性に応じて仕事内容が選択できるべきではないか」と思ったことをきっかけに設立に至った。

リベルタでは、障がいのある方が各人にあった仕事を任されている。学童保育の昼食とおやつを作る調理係や、宿題の本読みを聞く係、学童を利用する保護者に渡すアルバムを作るための写真をパソコンで保存・整理するなど多様である。その中でも特徴的なものが、養殖・畜養のノウハウを学ぶプログラムで、換水が必要としない陸上養殖を可能とする「好氣的脱窒装置の完全閉鎖型水産システム」という装置を使い、同システムを導入する水産漁業者への就業を目指している。同事業所でも半数以上が携わる人気の高い仕事となっており、現

在は、カワハギや伊勢海老、アワビ、海ぶどう等を養殖して、市内の居酒屋などに卸している。

学童保育×障がい者福祉 による相乗効果

池田理事長は「学童保育と就労継続支援B型事業所Libertaを併設した結果、良い効果が多くあつた」と語る。例えば、身体的障がいのある方は「子ども達にしっかりとした姿を見せたい」と介助なしでトイレに行けるようになったため、要介護5から3にまで回復した。また、週2日しか事業所に来られないと言っていた利用者は子どもたちの元気に影響され、気づけば毎日元気に来られるようになった。一方で子ども達は、障がいのある方が通る通路のおもちゃやパツと片付けるようになるなど、気遣いが当たり前のようにできるようになった。

明るい未来に向けて

池田理事長は今後の展望について「子どものことは一か所で完結できるように、保育園、学童保育、小児科の病院、病児保育、習

支店より一言

「一人一人の個性を尊重し豊かにしたい」とそんな思いで設立された同社。池田理事長の常に相手思いやり、失敗を恐れず挑戦し続ける姿には敬服いたします。施設に関わる皆さまが活き活きとされており、池田理事長の人柄や思いが伝わってきます。より良い社会づくりを担う企業として地域社会にはなくてはならない存在であり、今後も第一線で活躍されることを期待しております。



百五銀行 津新町支店長 鎌田 博也